

丁 珊 (テイ サン)

中国出身 / 2019 年度奨学生

麗澤大学 言語教育研究科 修士課程

2014 年 7 月 3 日、人生初の飛行機に乗って日本に参りました。大学に入る前は、留学という夢を考えたこともありませんでした。子供の時から高校まで、大学に入るために、命をかけたような勉強の毎日を送っていました。毎日勉強に追いかけて忙しそうに見えますが、将来のことを考える余裕もありませんでした。勉強だけの毎日を通り過ぎてと言っても過言ではありません。しかし、誰でも最初は自分の夢は分からないと思います。成長と共に、自分が好きなこと、自分がやるべきことが分かってくると思います。そして、私もその自分の夢を探し続ける人の中の一人でした。

まだ 11 歳のとき、私は地元で最も有名な私立中学校に入りました。その学校は寮がある(月曜日から金曜日まで学校の寮に宿泊し、週末には家に帰る)ため、学校の食堂で食事をしたり、自分の服を自分で洗ったりと、勉強から生活まで全て 1 人でできるようになりました。学校は高い評価と同時に厳しい規則で有名でした。最初は毎日泣いていましたが、その 3 年間は自分が自立した人間になるには不可欠な存在だったと思います。当時の自分は音楽や映画など様々なことに興味を持っていましたが、勉強に追われ、好きなことに時間をかける余裕はなかったのです。このような状況は私だけに見られることではなく、周りの皆も同じでした。勉強しかできなかったことは、現在の自分に役に立ったのかと改めて考えました。現在では「詰め込み教育」と言われていますが、当時は不自然と思ったことはなく、当たり前のことであると思い、大学に入ったら好きなことをやろうと思いました。

大学に入り、将来のことを真剣に考え始めました。大学の専攻は日本語で、語学の勉強のみならず、日本の文化に触れる機会も増えました。浴衣を着て花見をしたり、下手な日本語で漫才をしたり、メイドカフェを開いたり、ソーラン節を踊ったりと、今までの勉強と違い、自分が好きな物なら楽しんで勉強できると思いました。知らず知らずのうちに「日本に留学しに行きたい」という思いが心から芽生えてきました。

私の家は裕福な家庭ではないため、大学まで育ててくれた両親にとって、留学費用を用意することは決して簡単なことではありません。それでも「自分の好きなことをやれ」と許してくれました。両親には感謝の言葉しか思い浮かびません。日本で自分 1 人で生活できるように頑張ろうと思い、来日して 1 週間後、飲食店でアルバイトを始めました。熱いスープで手を火傷したこと、店のお婆さんに叱られたこと、深夜 2 時まで仕事をして泣きながら家に帰ったことを未だに覚えています。日本に来る前には経験したことがない辛さを体験し寂しい思いをしました。これは自分が思った日本ではないと思ったこともありました。しかし今振り返ると、このような大変な体験が、自分が強くなることに繋がっていると思います。

来日前に私が知っていた日本はテレビやインターネットの動画を通して知った日本であり、きれいな町、マナーを守る国民、世界一安全な国、そのようなイメージでした。しかし、

これはあくまでも日本を知る人たちに共通している浅いイメージです。自分の身で感じる生き生きとした日本の社会ではありません。日本に来て今年で5年目になります。5年間で色々な国の方々とコミュニケーションを取り、色々な年齢層の日本人の方と接する機会がありました。日本は多文化社会、色々な国の文化を受け入れると同時に自分達の伝統的な文化を守っている不思議な社会だと思います。日本のどこでも見られる中華、韓国料理、インドカレー、アメリカハンバーグ、ベトナムのフォー等の店は、まるで全世界の料理が日本に集まっているようです。世界の料理を受け入れていることは、世界各国の食文化、多文化を受け入れている国だということだと思います。しかし、日本は伝統的な文化を捨てることなく、逆に日本の文化を世界に発信し続けていると思います。アニメや寿司などは、日本文化の代表として当たり前存在であり、日本と言えば、それらが浮かぶほど、世界に浸透しています。中国だけではなく、他の国でも日本が行きやすい国であるという認識があると思います。私たち外国人は母国で日本の文化を好きになって日本に来たのだから、日本語を学んで文化や雰囲気を自分の目で見たり、肌で感じたりして、更に学びを深めていきます。日本語学校在学中に世界各国からの留学生と、同じ日本語で話したり、イベントに参加したり、日本の文化を学んでいました。私は違う国の方々と日本語でコミュニケーションすることが最も不思議であると感じました。

5年前に家族の期待に応えられるように日本で頑張ろうという気持ちで日本に参りました。5年の間に日本に対するイメージはそれほど変わったことがなく、嬉しいこともあれば、辛いことも経験しました。どんなことがあっても乗り越えていく来日前の決心があり、現在に至って自分はそれなりに成長できたと思います。日本の大学院に進学すると決め、進学する道は順調なことばかりではなく、壁にぶつかることもありました。しかし、日本語教育を学ぶという目標は一度も変わったことはありません。日本語の先生になって、自分と同じ日本のことに興味がある人々や詳しく知らない初心者に日本の魅力を伝え、共に成長していく夢は変わっていません。そして、2年前からは日本語教育現場で日本語を教えることが出来ました。それは自分の成長できた一つの証だと思います。

そして、大学院在学中に、坂口国際育英奨学財団の奨学生として授与させて頂きました。日本での留学生生活を支え、研究の発表の交流会の機会を与えてくださり、暖かい目で守って下さいました。経済的な面での助けだけではなく、生活までの心配をして下さり、家族のような存在であり、感謝の気持ちでいっぱいです。1人の力では足りないとも思われますが、日本と中国の間の永遠の友好関係を構築していくには、一人一人の力も大事だと思います。大学院を卒業し、日本の日本語学校で就職することになりました。これから日本と中国の間の架け橋になる人間になり、恩返しができるような人間になり、更に自分を磨き、自分の夢に向かって日本で頑張っていきたいと思います。感謝の気持ちを忘れずにこれからの人生を歩んでいきたいと思っています。そして、坂口国際育英奨学財団の奨学生のOGとして、活躍する場所を広げて努力していきます。ご応援よろしくお願い致します。